

魅どころ

効きどころ



奥田商事
ピンホール
OS-8Pデート

「メイド・イン・ジャパン」といえばカメラ。フジ、キャノンなどの大手のすき間をぬって、大成功した商品が広島にある。奥田商事が開発した「ピンホールOS-8P」。直接消費者の目に触れることは少ないが、金融機関などでは引っぱりだこの人気商品だ。海外でも高い評価を得ている防犯用カメラで、一〇%前後が輸出されている。

わずか三ミリの穴から撮る写真は鮮明で、同社の技術水準の高さをうかがわせる。今まではVTRが主流だった防犯カメラだが、今やテレビモニター監視機能と写真撮影機能を一台で二役兼ね備えた同製品がシェアを広げつつある。「今後、米国のように銀行は営業時間延長体制に移ってい

くでしようし、ノンバンクがCDやクレジットカードでのサービスも必要となるでしょう。二四時間お金の出し入れが可能となるのです。証券業界でも積極的に防犯カメラを設置していこうという動きもありますし、今後需要は伸びていくのじゃないでしょうか。犯罪防止とお客様へのトラブルを未然に防ぐために、同商品は必要だと思えますよ」と奥田社長。なんでも、当社が初めて銀行に機械を設置した昭和58年、すでにCDを使った犯罪が起こり、検挙に一役買ったのだそうだ。

さらに当社には現在開発中の秘密兵器(!?)があり、今年は新しい需要が期待できそう。「ジャンルを拡大して経営の安定化に繋げたい」と。